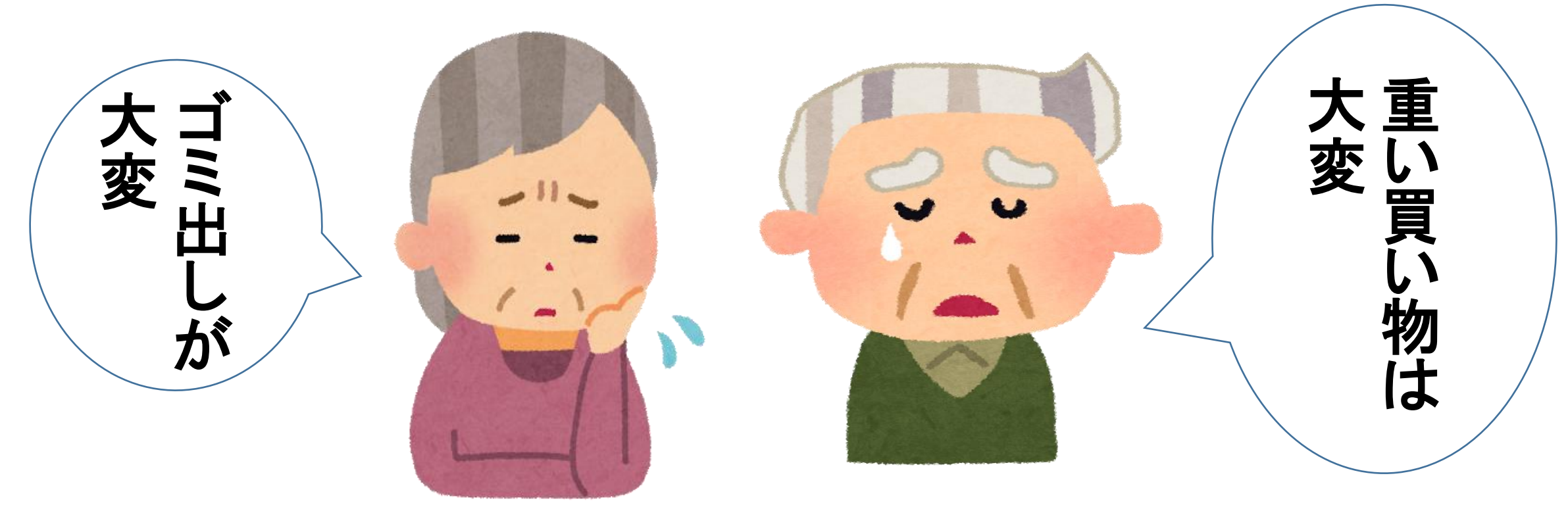


## ● 背景 - ボランティアの担い手が少ない

地域包括ケアシステムの実現には医療と介護の充実だけではなく、地域住民が互いに助け合いながら生活を続けられる地域づくりが必要とされています。

ボランティアと聞くと災害支援やオリンピックなどの大規模な活動と思われがちであり、そのイメージからボランティアは「体力を使う」「時間が必要」とハードルを上げてしまっているのかもしれませんが。しかし「地域のボランティア」はもっと身近で多様です。例えば単身高齢者の増加のため「ゴミ捨てなら行くよ」「隣りのおばあちゃん1人で大丈夫かな？」などといった小さな助け合いも必要とされています。

しかしながらそこに必要なボランティアの担い手が少なく、今後の地域社会を支えるうえで大きな課題となっています。



## ● アンケート調査実施

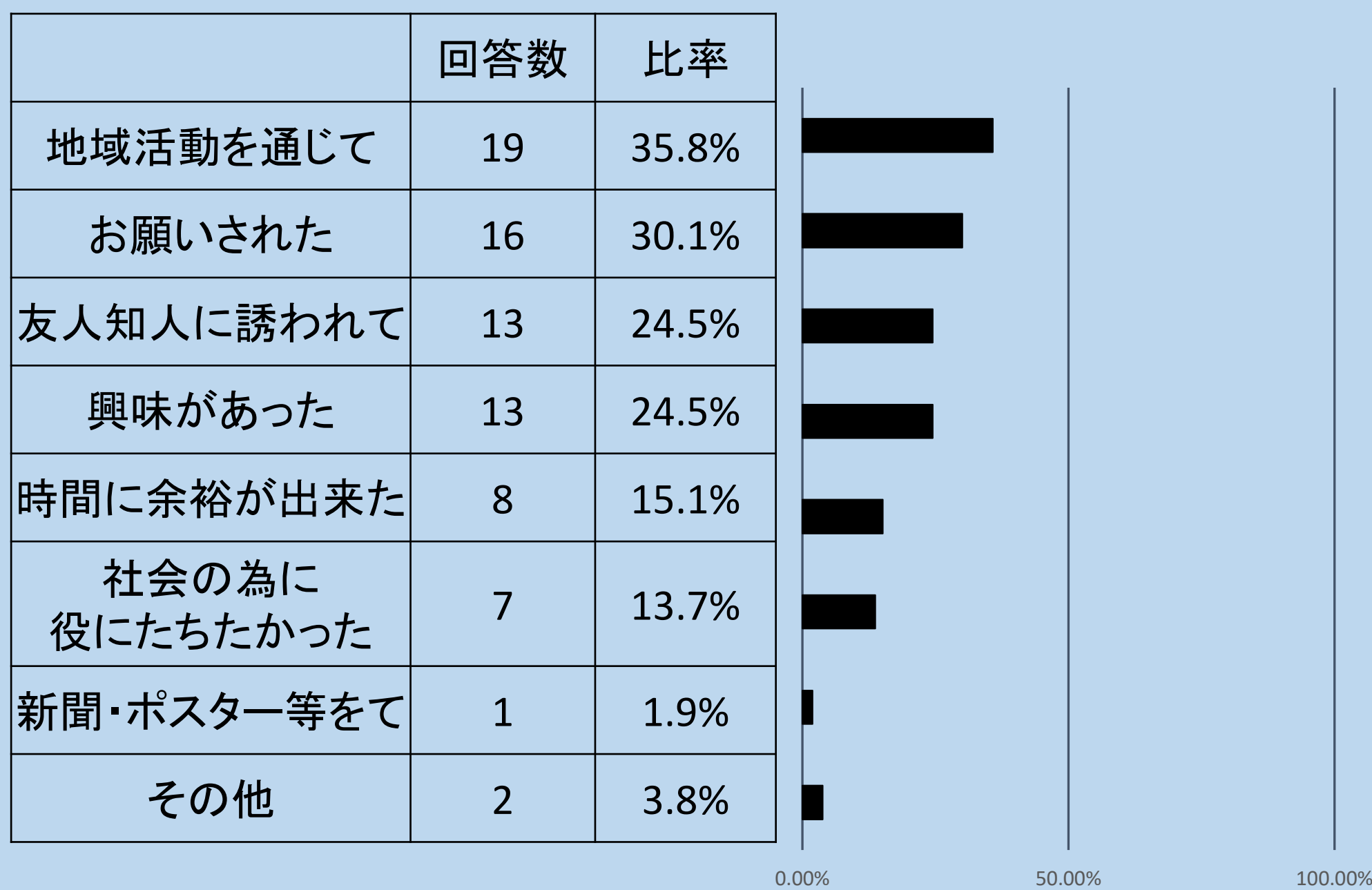
互助が重要と誰もがわかっていながらも、ボランティアの担い手が少ない理由は何故なのか？ 私達は、体操教室など介護予防事業の11グループをまわり、地域の方々にボランティアについての意識調査のアンケートを行いました。

		60代	70代	80代	90代
①ボランティア活動に参加している人	53人(男性17人 女性36人)	10	31	11	1
②ボランティア活動に参加したことがない人	64人(男性9人 女性55人)	8	37	18	1
③ボランティア活動を過去にしたことがある人	22人(男性5人 女性17人)	2	8	12	0
無回答	2人(男性1人 女性1人)	0	0	1	1
合計	141人(男性32人 女性109人)	20	76	42	3

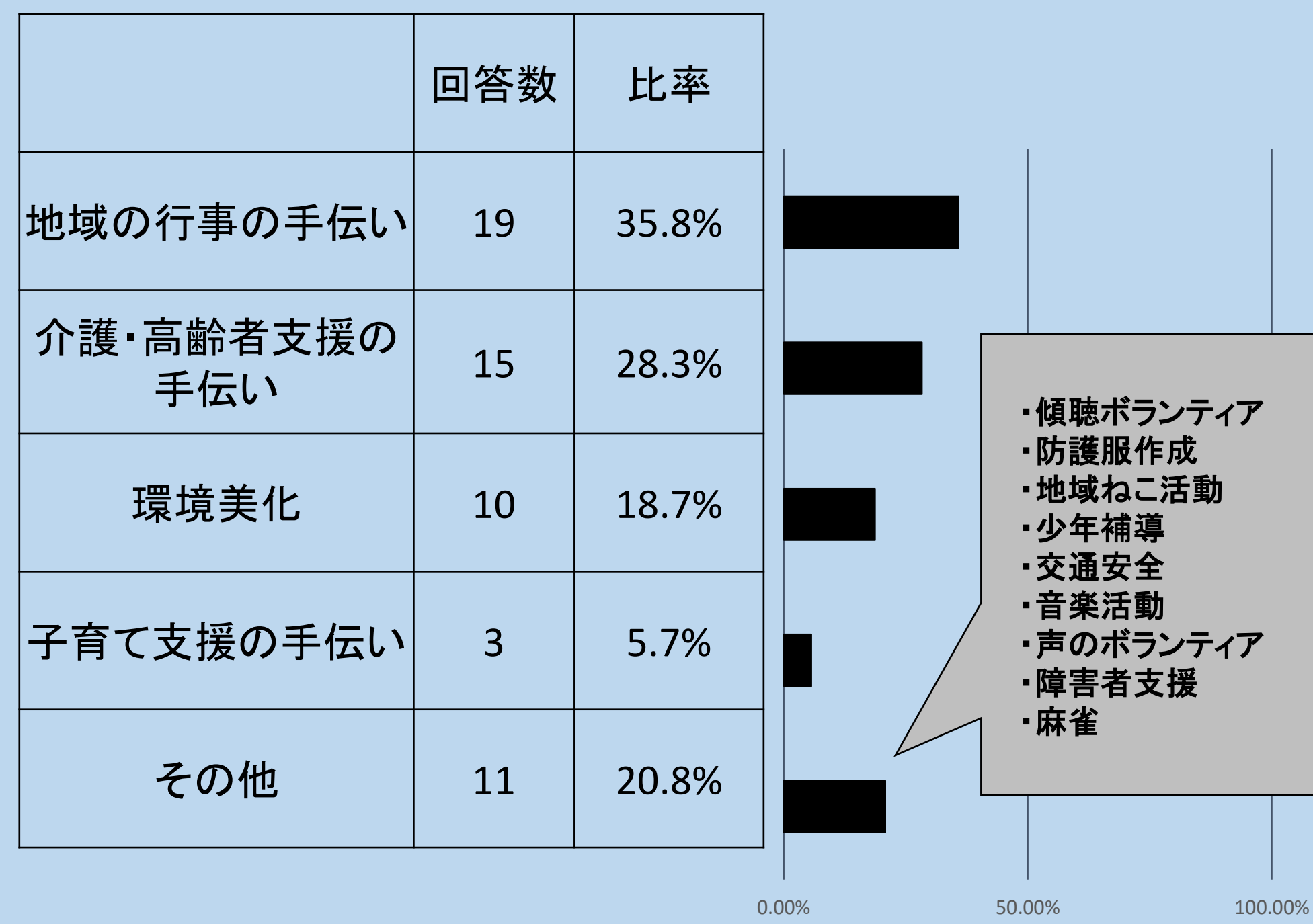
## ● アンケート結果

### ①現在ボランティア活動に参加している人(53人)

ボランティア活動をしたきっかけは？(複数回答)

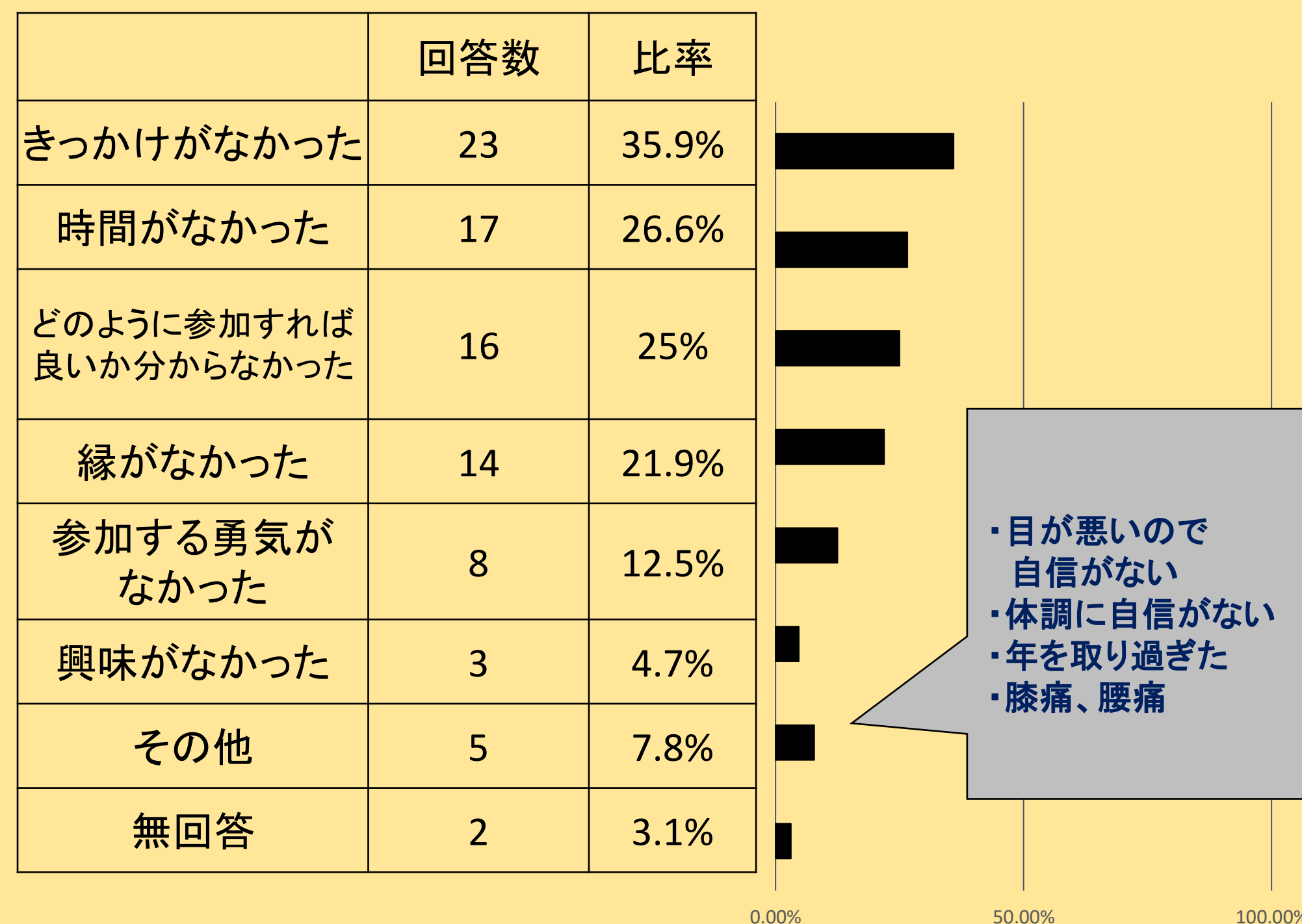


どのようなボランティアに参加していますか？(複数回答)

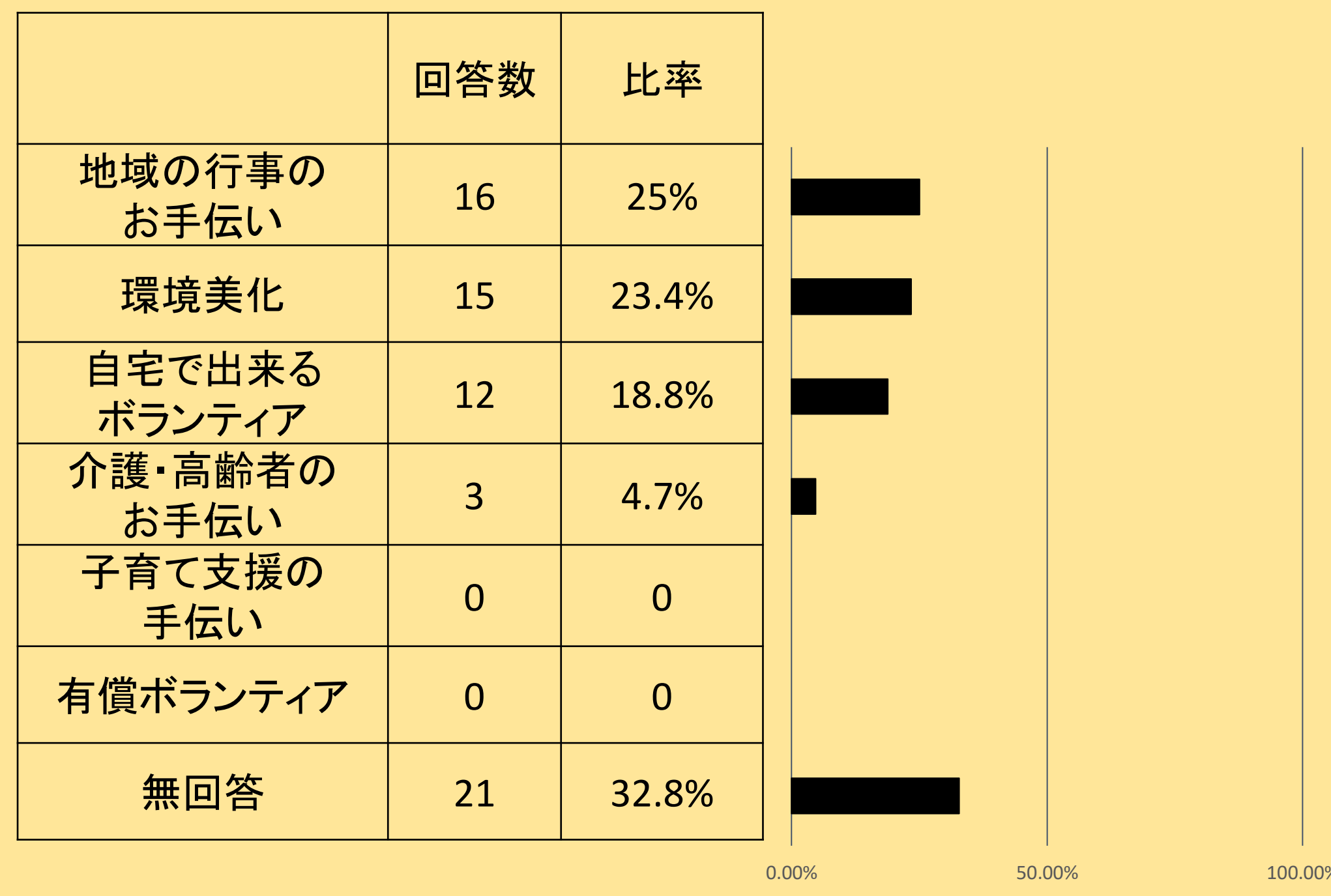


### ②ボランティア活動に参加したことがない人(64人)

理由は？(複数回答)

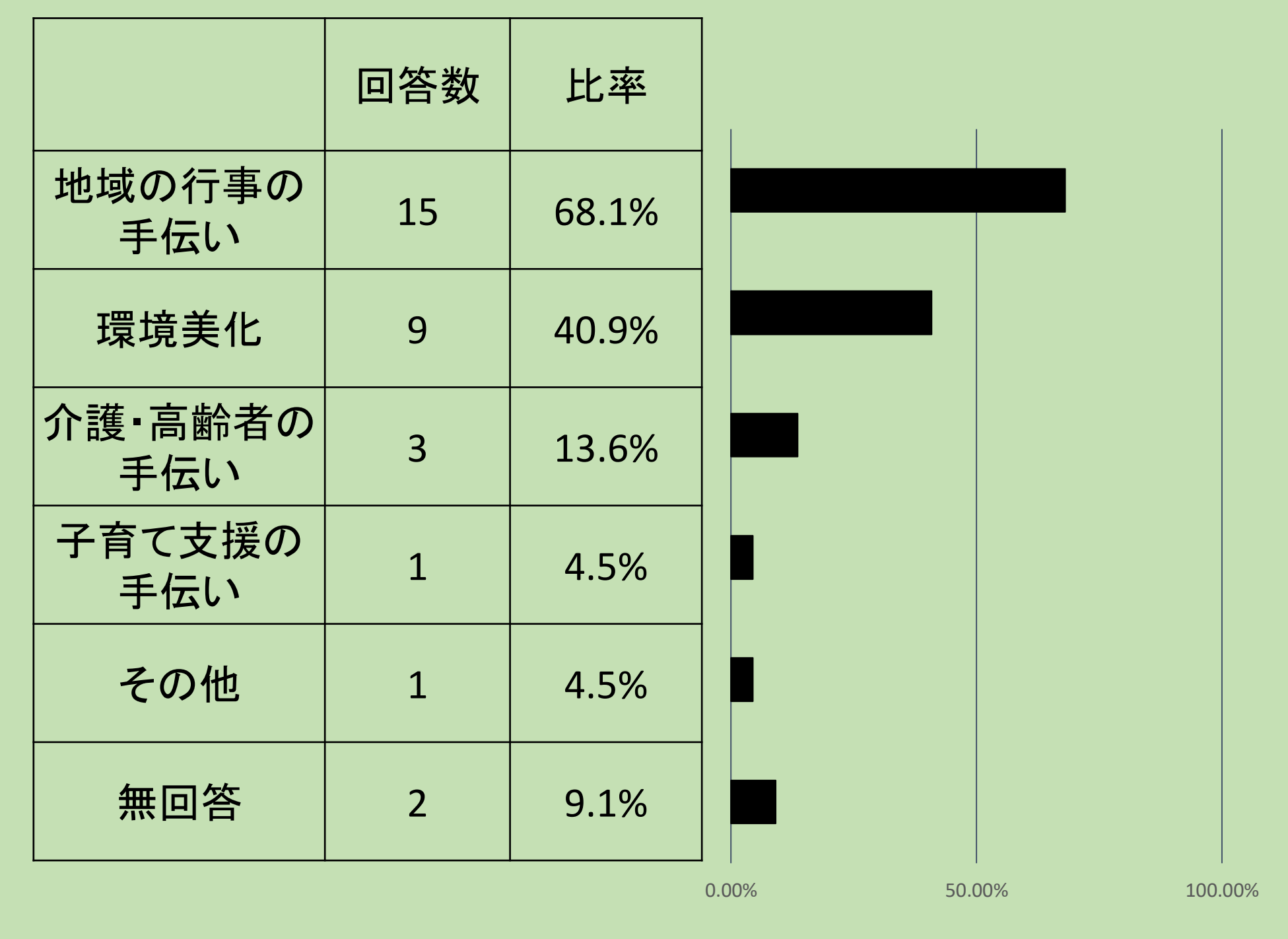


興味のあるボランティア活動は？(複数回答)

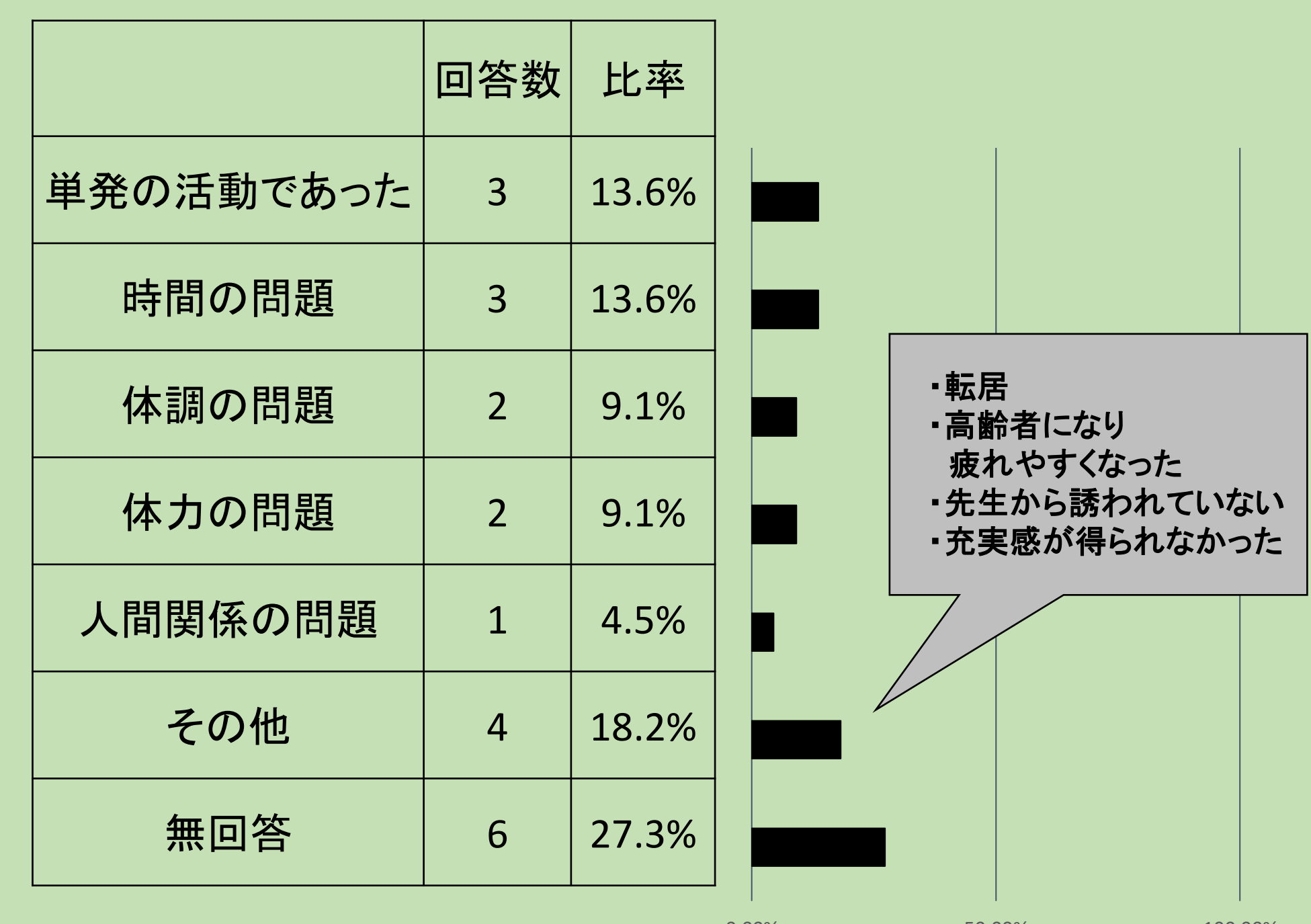


### ③ボランティア活動を過去にしたことがある人(22人)

どのようなボランティア活動に参加されていましたか？(複数回答)



辞めた理由は？(複数回答)



“①現在ボランティア活動に参加している人”のうち、活動を始めたきっかけは、「地域住民からの声掛け」「お願いされた」との答えが多く、“②参加したことがない人”の理由では「きっかけがなかった」との答えが多かった。

すなわち、ボランティア活動を始めるきっかけは、新聞やポスター等からではなく住民同士のつながりの中からうまれていた。また参加する気持ちは大いにあるが、「きっかけがなかったから」と地域の声を拾うことができた。そしてそれぞれの人が共通して「地域の行事の手伝い」を身近なボランティア活動と考えていることが分かった。



## ● 考察

地域で新たなボランティアの担い手や、仲間を増やすために、かわりの薄い者が「ボランティアしませんか？」と声をかけたり、「興味ありませんか？」と一方的に発信しているだけではなかなか活動参加に結びつかないことが見えてきた。

私たちの日常には、一人では不安で参加する勇気が出ず、きっかけがつかめなくても、人と人とのつながりの中で背中を押され、飛び込めることはたくさんある。

自らが助け合いの関係の中へ自然に溶け込んでいけるよう、地域包括支援センターで支援できることは何か。

その一つは地域で人との交流の場を創出していくことだと今更ながらに実感した。

## ● 今後の課題

今回の調査から、地域包括支援センターでは、地域住民が無理のない範囲でボランティア活動に参加できる環境を整える取り組みを前に進めていきたいと思う。

具体的には体操教室や、サロンの立ち上げ以外に、認知症の啓発活動の中で、助け合いの気持ちや必要性の理解を深めてもらうことや、ボランティア養成講座のリーダー育成なども含め多面的に行っていききたい。そこに、人と人との輪がつながるような場の創出を意識しながら取り組んでいきたい。